

地域支援だより

きらりNet



令和2年1月24日

第100号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

医療療育センターでの活動を振り返って

教諭（兼）教育専門監 島津 憲司



教育支援員として

今年度より、医療療育センターに派遣され、教育支援員として業務にあたっております。センター内の地域療育支援部、発達障害者支援部（ふきのとう秋田）、総合相談・医療療育連携室の3部署のスタッフとともに、各部署に寄せられる保護者や当事者からの相談に対し、面談等を通して教育的視点からアドバイスをさせていただいております。

自分が関わる相談内容としては「就学や教育に関する相談」が多いです。保護者の方が、学校側とお子さんへの支援や対応の在り方等でうまく連携を図れずに悩まれているというケースが多く見られました。小・中学校の校内の支援システムやキーパーソンとその役割、それらを活用した効果的な連携の在り方について、具体的な例をあげ説明し、さらに「つなぐ」支援もしております。

具体的な取組

<「きょうだい勉強会」の開催>

学校等で特別な教育的ニーズを必要とする子どもたちへの支援を効果的に行っていくためには、周囲の子どもや保護者への理解を深めるための取組を進めていくことが、今後ますます求められるようになると思います。

そこで、令和2年1月9日（木）に、そのきっかけづくりの一つとして、ふきのとう秋田が主催となり「きょうだい勉強会」を実施しました。これは、発達障害のある「きょうだい」がいる小学生と保護者を対象とした勉強会です。

勉強会の大きな流れ



障害は確かにあるけれども、「自分のことはできるだけ自分でしたい」、「いろいろなことをできるようになりたい」という気持ちはみんなと一緒にであることを強調し、具体的な関わり方のコツ等を伝えました。自分も障害がある友達やきょうだいも「一緒に楽しむことができるゲームについて考える」ことをテーマにして、お互いに意見交換をして、今後のきょうだいとの関わり方を考えました。

<勉強会を終えて>

保護者の感想には「親子で障害について考える時間はなかなかもてなかったので、非常に有意義であった」という内容が多く見られました。家庭でも、ぜひ勉強会の内容を話題にして、さらに周囲の人々との関わり方などを話し合ってもらいたいです。

ふきのとう秋田でのこのような勉強会は初めてでしたが、ニーズに合わせて定期的に勉強会を開催したいと考えています。



実践紹介⑧ 幼児教室「きらり☆ひろば」

幼児教室「きらり☆ひろば」は、中通総合病院の小児科に入院している幼児を対象に月2～3回実施しています。

病棟保育士と連携しながら遊びの場として、小児科のプレイルームで、歌や手遊び、絵本や紙芝居、季節の制作、ゲーム等の活動を行っています。

また、病室を訪問し、ベッドサイドで絵本の読み聞かせ等を行ったり、病室とプレイルームをSkype（スカイプ：インターネットを利用したビデオ通話）で結び、病室内でプレイルームの友達と一緒に活動できるようにしたりしています。

さらに、保護者の方々のニーズを丁寧に聞きとり、必要に応じて情報を提供したり、就学や就園の相談にのったりすることも行っています。

小児科病棟主催イベント（夏祭りやハロウィン、クリスマス会）への協力もしています。



教育専門監のコーナー

《肯定的な自己イメージ(基本的自尊感情)を育む》

【学びに向かう力や姿勢(非認知能力)】

「非認知能力」とは、目標を達成するための「忍耐力」「自制力」「目標への情熱」、他者と協力するための「社会性」「敬意」「思いやり」、情動を抑制するための「自尊心」「楽観性」「自信」などの幅広い力や姿勢のことです。

【ベースになるのは「自分は愛される存在」と感じること】

自己肯定感の根底にあるのは、「どんな自分であっても愛してくれる人がいる」という他者への基本的信頼感。そこを核として「自分は愛される存在なんだ」という自分への信頼感＝自己有能感は広がります。この二つをベースに、さらなる他者との関わりで、認知能力の土台となる「非認知能力」が育っていきます。

幼児期の教育で重要となる「非認知能力」、基本的自尊感情や生きる力を育む関わり方のヒントにしてみたいかがでしょうか。



図：「非認知能力」の3側面と「関わり」のヒント

参考：これからの時代に必要な能力は「非認知能力」
汐見稔幸 東京大学名誉教授 小学館「HagKumはぐくむ」

子どもにとって、家族と過ごす時間は日常の中で大切な時間です。入院していても以前と変わらず、家族や友達、先生と一緒に遊ぶ、学ぶ『きらり☆ひろば』は、「病気になっても変わらない自分」を感じられる大切な時間です。不安を抱えて病院で過ごす子どもたちは、『きらり☆ひろば』を通して、周囲を信頼する基本的信頼感やあるがままの自分を認める自分への信頼感を得ていきます。

「赤鼻の先生」こと副島賢和先生は話します。「子どもは本来どんな状況であっても学びたい」と。子ども達は、友達や先生との関わりの中で「自分はだれかにとってかけがえのない存在である」ことを支えに、幼児期に大切にされるコミュニケーション力・がんばってやりきる力・気持ちのコントロール力という、学びに向かう力や姿勢を身に付けていきます。

少しでも子どもたちの心の支えとなるように、今日子どもたちと一緒に歩んでいます。〈文責：二階堂 悟〉

◇教育相談・見学の希望があれば、いつでも御連絡ください。

教頭 兜森 宏征 地域支援部主任 大友 明希子

住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisen@akita-pref.ed.jp

電話：018 (889) 8573

FAX：018 (889) 8575



「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

